

統合診療棟 (2025年5月7日開院)
Integrated Care Building



大阪大学医学部附属病院 統合診療棟

「統合診療棟」について

本院では、高度で安全な医療を通して、患者さんに安心と満足を提供することを目指して日々の診療を行っています。1993年に中之島から吹田へ移転してから30年以上が経過したこともあり、老朽化や狭陰化が目立つようになってきました。

そこで、本院に課せられた、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、“Futurability 待ち遠しくなる未来へ。”というコンセプトのもと、2013年に再開発計画を始動しました。

地中障害物の撤去による工期延長や社会情勢の影響による建築費の高騰などさまざまな困難に直面しましたが、12年の月日を要し、ようやく現病院の北側に新棟である「統合診療棟」が

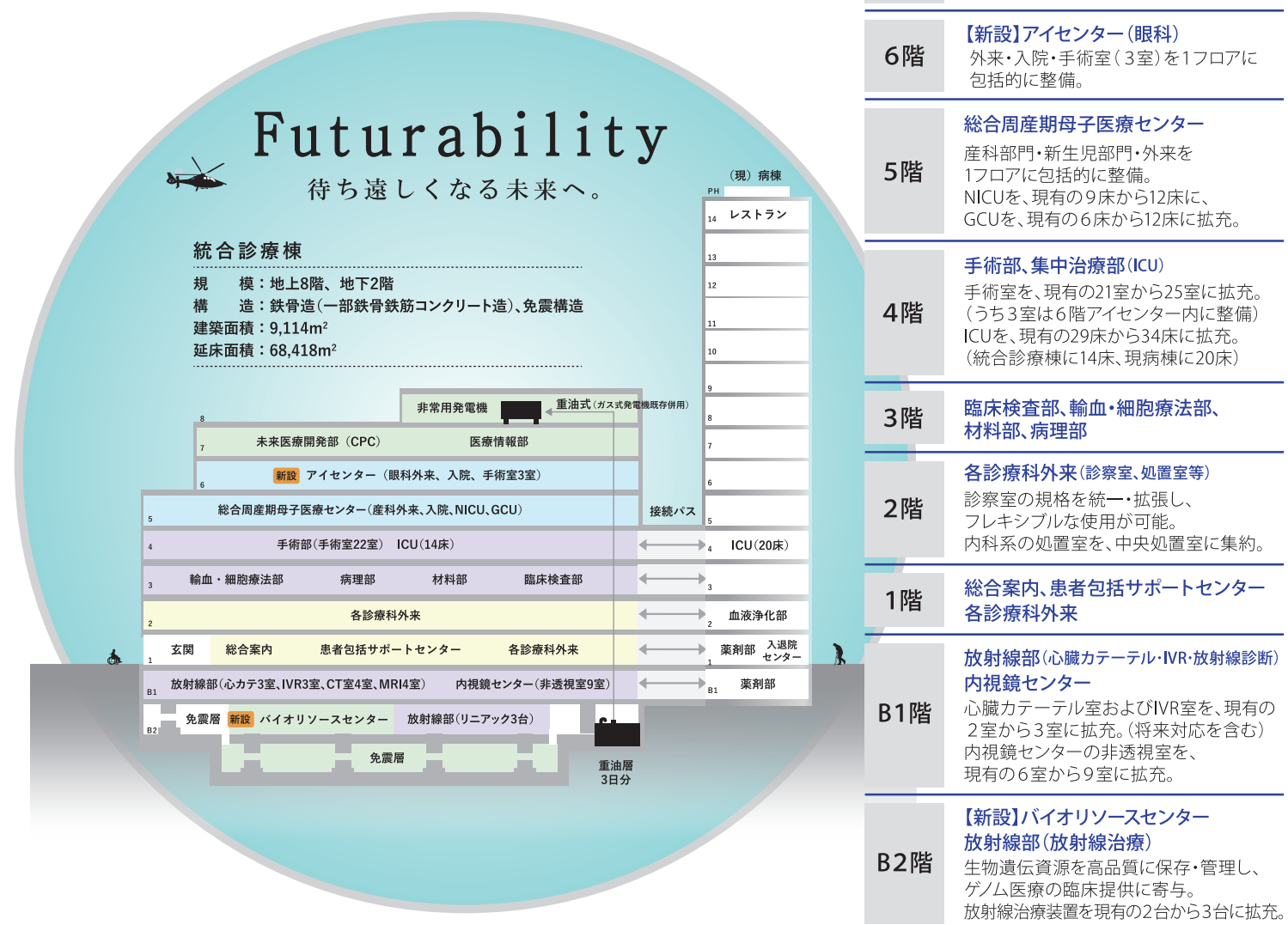
完成し2025年5月7日に開院しました。

新棟には、外来診療施設、手術部などの中央診療施設のほか、総合周産期母子医療センター、アイセンターなど病院の高度機能を支える部門が設置されています。

また、大学病院でしかできない臨床医学研究・開発のための
未来医療センターやバイオリソースセンターといった収益に結
びつかない将来の医療に必要な部門も含まれており、これまで
以上にすばらしい診療体制が整うこととなります。

今後は、新病棟の整備も行うことを予定しており、より一層発展した医療を提供し、未来を見据えてさらに発展・進化していく阪大病院にどうかご期待していただきたいと思います。

[統合診療棟の機能(各フロア)]



4階手術室

各手術室は7.5m×8.5mを基本に構成し、さまざまな診療科の手術に対応すると共に、多くの医療機器を配置できる余裕のある汎用性の高い手術室としている。



5階NICU

NICU (Neonatal Intensive Care Unit・新生児集中治療室)は9床から12床とし、うち1床は重症対応の個室として計画。壁および天井には、赤ちゃんに直接風が当たらないよう輻射空調パネルを採用。



6階アイSENター廊下

【光がつなぐ世界一のアイセンター】をコンセプトに、光を効果的に利用した内装計画としている。(ゴボ照明による床上エリアサイン、照明内蔵手すり、天井部間接照明等)